

A 南ターミナル1F チェックインロビー

京都精華大学

自由自治を建学の理念として開学し、昨年50周年を迎えた京都精華大学からは、芸術学部の洋画、日本画、版画、テキスタイルの学生が参加しています。日々、旅立ち、別れ、出会い、そして再会を繰り返す「空の港」に4名が様々なストーリーを展開する様を、どうぞご覧下さい。

A-1
石黒玄季
かぜのね
Voice of Habit
日本画

A-2
石黒玄季
さがす
Seek
日本画

A-3
村上紗世
記憶
油画

2年前に他界した祖父を主に、人が生きる事、死ぬという事、人と人の繋がりをテーマとし、生活の中で感じた事を作品にしています。この作品は祖父と家の近くにある公園で遊んでいる様子をイメージして描きました。毎日のように会い、絵を描いたり公園や庭でたくさん遊び色々な事を学ぶことができ、その経験や思い出は忘れません。どんなに辛いことがあっても最後まで大事に想ってくれていた祖父の事を考えるとまた立ち直る事が出来ます。亡くなったからすべてが無くなるという説ではなく、共に過ごした思い出は私の一部となり私の中で永遠に残り続けます。私の油彩をみて、鑑賞者が自分や他者について考えるきっかけとなるような作品を目指して制作をしています。

A-4
岩井まどか
トキワタリ
テキスタイル
空を飛んでいたら時間は進まないのでは?
そういうことを一度は考えたことがないだろうか

大空を飛ぶトキと大阪の街をモチーフに
夕焼け色に染め上げた

A-5
砂野真里奈
お誕生日はいつか終わる
版画

お誕生日は毎年やってきますがそれもいつかは終わってしまいます。
これはそのいつかを己で決めた人たちとそれを目の当たりにした人たちに捧げる作品です。社会に隠されてニコニコしている彼らが偏見と苦しみから解放されることを祈っています。

B 北ターミナル1F 団体ロビー前

京都市立芸術大学

京都府画学校として1880年に創設され、芸術系大学としては国内でもっとも長い歴史を持ち、実践的に伝統の継承と刷新の両方に取り組んできました。今回は構想設計専攻の学生を中心とする有志が、写真、映像など様々なメディアを用いて表現した作品を展覧します。

B-1
ホリエナオ
photo space shuttle

この作品が再使用される、撮影のためのコミュニティ空間となることを目標に制作しました。この展示や実際にこの場所で起きる出来事は、点的なもので再現不可能ですが、写真を通して撮影したときの記憶やその時の感情を繰り返し呼び起こすことができます。

B-2
張瑜芳
人間合格
Still Human

空港は、普段気づきにくい「自分は一人の人間としてどのように存在するのか」を浮き彫りする特別な場所です。何をもって「わたし」を証明できるのか、その過程で強調されるもの、失われるものは何か、をこの作品を通して考えたいと制作しました。

B-3
詹涵逸
I'm from

鉛筆で描いた台湾の地図の一部を切り取って、それをパンチでバラバラになるまで穴を開けました。国境は当たり前じゃないこと、時々自分の国籍を消したいと思う気持ちと台湾人のアイデンティティーの問題を扱った映像作品です。

B-5
shimizu kana
伊丹
Itami
写真

現在私は京都に住んでいますが、兵庫県の川西市出身でこの空港や飛行機は幼い頃から身近に感じていました。中学校や高校の通学路や教室で聴いていた飛行機の音のそのときの景色をテーマに制作しました。

B-6
西村仁那
DEPARTURE OVERTURE

空港は出会いと別れの集約地です。の中でも知人を送る人たちから見た視界、まるで「あなた」だけがハッキリと認識できるような、広い世界の中ほんの一人のみに焦点をあてた場面の作品を制作します。

B-7
宇野史嘉
夜の街
City of Night

アニメーション

B-8

菊地陽菜

Collection II

インスタレーション

毎日つけている日記で過去を振り返る、この心を満たす行為は、まるで不足したビタミンなどを補うサプリメントのように思えました。日記とサプリメントを重ね合わせ、日々の会話のなかで印象深いコトバをサプリメントに記した作品です。

B-9

加藤翠子

ミックスジュースのお店II

インスタレーション

現代を生きる私たちは文字情報や画像を日々閲覧することで、モノの本質を知る機会から遠のいてしまっているように思います。本作は文字や画像で知りえる情報と五感を使って体感することの違いをミックスジュースを例に表現した作品です。

A **B** 南北ターミナル1F

神戸芸術工科大学

南北ターミナルの展示会場では、プロダクト・インテリアデザイン学科の有志の学生らが作品を飾るための展示什器をデザインしています。人の流れや視線を緩やかに作品へと促すように120°の角度で空間を仕切るパネル什器となりました。作品と共にこの什器にも是非注目してご鑑賞ください。

デザイン：加集広樹・幸福咲実・多木翔夢・土橋梨沙・豊嶽力也・仲村優希・畠山準弓

C-4
矢羽野泉
What's inside?

アニメーション
もしかしたら手荷物検査でこんなことまでわかつちゃうかも?という想像です。

C-5
西明真弥
LIFE OF PICTOGRAM

アニメーション
私たちの気づかないところで、空港のピクトグラムにも生活があったとしたら面白いなと思って制作しました。離陸から着陸までの様々なピクトグラムのストーリーを感じて頂けたらと思います。

C 中央ブロック3F 北側・南側通路
デジタルサイネージ

近畿大学

近畿大学文芸学部文化デザイン学科後藤ゼミは、パイロットやキャビンアテンダントのように脚光を浴びることは少ないけれど、空港を安全・快適に運営するために重要な役割を果たしている「縁の下の力持ち※」たちに焦点をあてた「動くポスター」シリーズを制作・発表します。(※人に限らず、機械やピクト・サインなども含む)

C-1
植田真穂
365 welcome

アニメーション

沢山の人を乗せた飛行機が朝から夜まで毎日この空港にやってきており、飛行機がここに集まるにはある人が活躍しています。それはグランドハンドリングといい、みなさんを毎日朝から夜まで今でもここでみなさんをお出迎え、歓迎しています。

C-2
谷村無生
WE ARE...

アニメーション

はっきりした線を持つ静止した文字の前後を、塗りムラがある手描きのワーカーが縫っていきます。テイストの違う2つの要素が共存している作品です。ぎこちなく画面の中を行ったり来たりする、かわいらしいワーカーの動きも楽しんで頂けたら嬉しいです。

C-3
寺田くれは
HAVE A NICE PLATE

アニメーション

皆が素敵な旅を思い浮かべながら旅支度をするように、機内食のおかずたちも、あなたの素敵な空での出会いを夢見ながら、支度をしていくことでしょう。そんな旅支度特有のわくわくした気持ちをパックの中に詰めました。

大阪芸術大学

空港を劇場に例えると、その舞台上では毎日いくつものオムニバスなドラマが繰り返されています。絵画や版画などの平面作品は、そのいくつのドラマを客観的に定着させて永遠のものとして鑑賞者に平等に語りかけてくれる「窓」となります。表現の入り口に立つ学生 18 名が描いた「窓」を通して、空港で繰り広げられるドラマをお楽しみください。

D-1
新津瑠唯
瞬
油画

D-2
新津瑠唯
瞬
油画

D-3
新津瑠唯
瞬
油画
自分が飛行機になって空を飛ぶ時、空はどんな風に流れいくんだろうと想像しながら描いた作品。

D-4
丘乃安
ギフト
Gift
版画
都会の間をリンクするには"線"が必要です。空港はその線だと思います。人々はそれぞれのメッセージや感情を持って空港で出会い、情報を交換しているいろいろな事が起こっています。どんなに良い事や悲しい事があっても、全てここでプレゼントを交換するように、お互いの心に届きます。

D-5
貫涼海
々
版画
カップのゆげでかんがえる。

D-6
平田朱音
接

Contacto
鉛筆画

D-7
平田朱音
交差
X

鉛筆画
空港はたくさん的人が行き交う他にはない空間です。その中の見送る人や出迎える人の暖かい手にフォーカスを当てた作品です。

D-8
山下堅蔵
落とし物
油画
旅の中で手に入れるものは何だろう。物質的なものではなく、精神的な想いだと思う。その気持ちをドローイングした。

D-9
山下堅蔵
すれ違うもの
油画
空港の離着陸をずっと見つめていたら、このドローイングが立ち上った。人ととのつながりもこうかもしれない。

D-10
坂本嵩成
色追
アクリル画
色と色の協調性、隣り合わせる色が色に対して何を感じているのか何を思っているのか。その瞬間瞬間の色が喜んでくれる表現とは何かをテーマにしました。

D-11
津田朔椰
千日紅
Globe Amaranth
油画
生きていることへの感謝の念でいっぱいの人間こそ不滅のものを持っています。人を審判する場合、それは自分に、屍や、神を感じているときです。無間奈落 押せども引けども動かぬ扉がこの世の中にあります。しかし愛だけはそうではなく、不死で、不滅で、同時に、或人の持つ総量に変ることがありません。そういうものを描き表した作品です。

D-12
津田朔椰
桃の欠片
油画
華やかで美しい可憐なピンクや白の花を咲かせ、ほのかな紅色をした果実は甘くみずみずしさがあります。桃は植え付けから数年で成木になり大きな実を収穫できますが病害虫が多く、栽培に

は摘果や袋かけ、多くの手間と技術が必要です。何一つ不自由なく可愛がられた桃は、いつか大切なもののを見つけそれを失った時、自分が置かれた環境に甘えて生きていた愚かさに気付くでしょう。

D-13
辻野奈那子
わくわく
油画

D-14
辻野奈那子
わくわく
油画
描くことでしか表せない世界=瞼の裏をテーマに、空港に降り立ったときの感情を表現しました。点が織り成す多彩な旅路をお楽しみください。

D-15
島田清楓
Put
油画
どこにでもある交差する瞬間です。

D-16
澤田光希
風景
Scene I
ミクストメディア

D-17
澤田光希
風景
Scene II
ミクストメディア
空港ときいて自分の中にあらわされた光景を描きました。

D-18
橋中信吾
空は私達の夢
油画
日常の大人の楽しみとは何であろうか?危なそうな所にちょっと踏み込んだり、少し手間をかけてみたり、ちょっとした事も楽しめないつまらない大人になってしまってないだろうか?

D-19
橋中信吾
風情のあるハウス
油画

私がよく行くライブラリーは、自然の中に居るような雰囲気が感じ取れる。そんな所でよく話をする人物が居るのだが、芸術鑑賞する時は私もこんな純粋に芸術を楽しむ事ができているだろうか?

D-20
新拓馬
コンポジションI
Composition I
ミクストメディア

D-21
新拓馬
コンポジションII
Composition II
ミクストメディア
たまにはノープランな旅行も良いかもしれないな、と思い制作しました。

D-22
井上琢也
道徳的意図
油画
過去は只のデータであり、現在は思考ルーチンの連続でしかない。

D-23
井上琢也
訓令
油画
現実は予め記録されていて、それが再生されているだけだ。

D-24
市本菜々美
The lines
油画
私は今、色に恋をしている。

D-25
印藤千以子
ebb and flow
油画

D-26
高林宣城
出くわし
Encounter
油画

D-27
高林宣城
出くわし
Encounter
油画

D-28
高林宣城
出くわし
Encounter
油画

D-29
高林宣城
出くわし
Encounter
油画

D-30
高林宣城
出くわし
Encounter
油画

D-31
高林宣城
出くわし
Encounter
油画
空港を様々な意味での発火点の場と考えている、制作も又、描画材料と支持体の出会いから生じる発火点とし、自らのイメージをいかに越えていけるかをテーマとして行っている。

D-32
増谷千咲
Flight
油画
空、ぼんやり

D-33
増谷千咲
Window
油画
ゆっくりひろがって変化した

D-34
西井輝
time
油画
私達は色んな時を過ごし次に進むが、その思い出はだんだん淡くなってしまう。しかしそれらの事があったからこそ今の自分は存在する。この事をたらし込みで表現し、自分はどんな時間を過ごしてきたかを思い出して欲しいと想い制作した。